



TCC
TOKYO CITY CANVAS

TOKYO
CITY CANVAS

CONTENTS

04  What is construction site art?
仮囲いアートとは

06  Construction site art by Tokyo metropolitan government
東京都の実施事例

16  Construction site art by the private sectors
民間企業の実施事例

22  How to implement a construction site art project
アートプロジェクトの進め方

23  Administrative procedures
行政手続

26  Grant information
助成金情報

28  Questions and Answers
よくある質問



TCC
TOKYO CITY CANVAS

IMAGINATIVE GARDENS

TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH

現在、代々木公園として親しまれているこの場所は、時代とともに大きな変容を遂げてきました。今回、東京都と共にアートプロジェクト「TOKYO CITY CANVAS」を実施するTOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCHは、1900年代初期から1964年の東京オリンピックを経て現代と連なる、この土地の歴史と自然に焦点を当て、「IMAGINATIVE GARDENS (イマジネイティブ・ガーデンズ「創造された庭」)」をテーマとした、陶芸美術、絵画、造形、3Dのアーティストによる作品群を制作しました。

各アーティストは、初期の写真技術や最新デジタルテクノロジーを用いて、普段は見えない側面や世界を可視化することを試みました。この土地の歴史を記録したアーカイブ写真や、公園にまつて生息している植物の標本、3Dソフトウェアの公園アセットなどを出発点として独自のリサーチを展開し、写真とデジタル技術が交差する新たな視点から代々木公園の多層的な姿を表現しています。

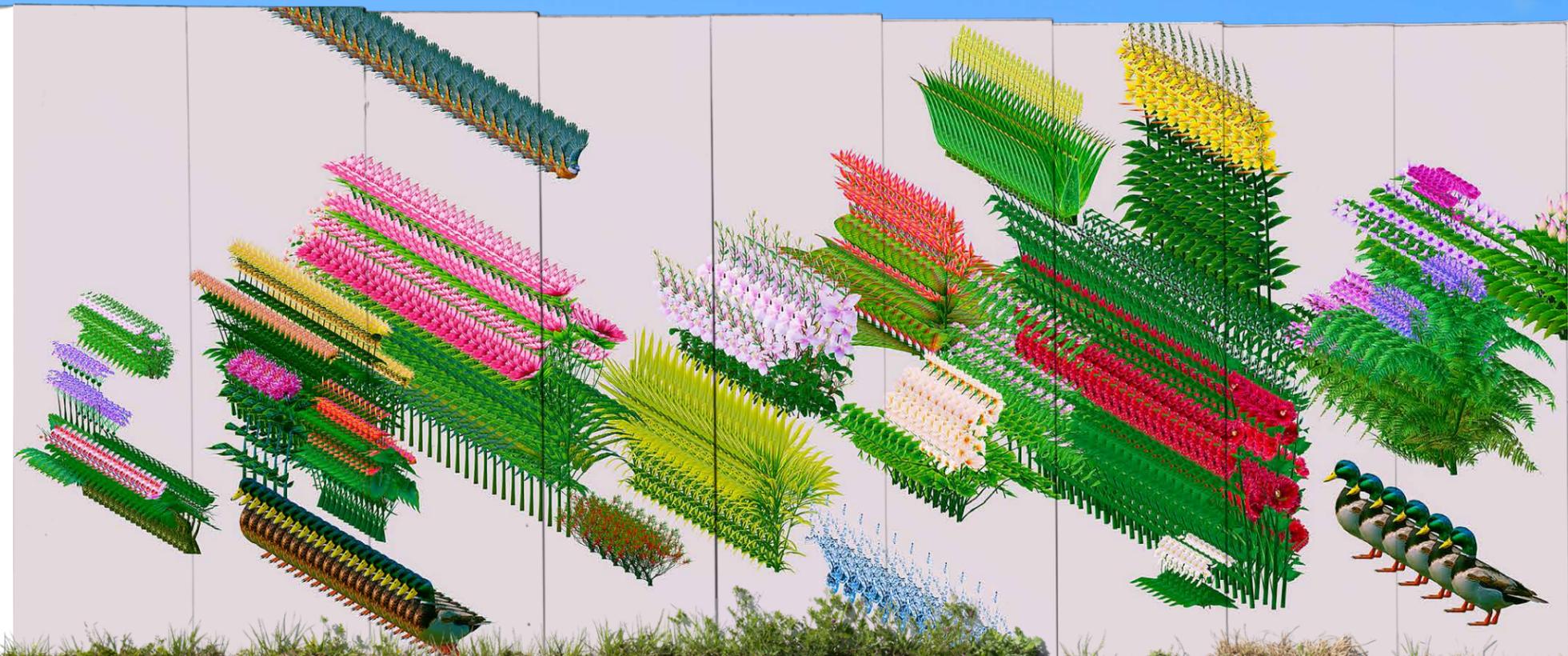
四季折々の風景が広がるこの大きな広場で、アーティストが見出した新たな自然の姿を体験していただけ幸いです。

TOKYO CITY CANVASは、さまざまなアート種別を包括的に展開するプロジェクトです。工事現場の環境、安全対策への配慮など、都市の発展、暮らしの向上、環境の持続可能性を追求し、地域社会の発展に貢献することを目的としています。

Using construction sites as canvases, TOKYO CITY CANVAS is a project implemented by the Tokyo Metropolitan Government to bring art to the city. Utilizing the creativity of artists to transform temporary, and construction site enclosures, the project aims to create spaces that add new appeal to the city and allow residents to enjoy art in their daily lives.

主催：東京都、企画・制作：TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH、デザイン：山崎洋介、アート：陶芸美術、絵画、造形、3D

TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH   





What is construction site art ?
仮囲いアートとは

TCC
TOKYO CITY CANVAS

「TOKYO CITY CANVAS」は、
まちなかにアートの景色を広げていく東京都の新たな文化プロジェクトです。

工事現場の仮囲いなどをキャンバスに見立て、
都市の余白、隠された可能性にアーティストたちが創造性を注ぎ込み、
無機質だった街の一角を華やかに彩ります。
変化し続ける都市「東京」の躍動をアートで表現し、
新しい視点で東京を感じるきっかけとなることを目指します。

 東京都

都民が日常的にアートに
触れる機会を創出

アーティストの
活動領域の拡充

都市空間の魅力向上と
文化的価値の発信



Symbiotic Landscape

IKU HARADA

実施場所 駒沢オリンピック公園総合運動場
(東京都世田谷区駒沢公園 1-1)

アーティスト 原田 郁

主催 東京都

掲載期間 2024年4月～2025年1月

改修中の体育館を背景にした、全長約90メートル、高さ約3メートルの作品です。手がけたのはアーティストの原田 郁氏。コンピューターの中に架空の世界を作り、それを現実の絵画として仕上げる作風が特徴です。工事で使われるパイプや鉄骨のような造形が、まるで生き物のように組み合わせたり、周囲のリアルな草木や花々と共存している様子は、工事現場が自然の一部であるかのような不思議な調和を生み出しています。赤・青・黄・緑を用いた鮮やかなカラーは、都立駒沢オリンピック公園が会場のひとつとなった東京2025デフリンピックのテーマカラーにちなんだものです。

06 本作品は、P24に記載する「守らなければならない広告物の規格」を超えていますが、東京都生活文化局が申請者となり、景観や風致の向上に資するものとして特別に許可を得て掲出したものです。



みずのはし

SHINJI OHMAKI

実施場所 東京都庁第一本庁舎
(東京都新宿区西新宿二丁目 8-1)

アーティスト 大巻 伸嗣

主催 東京都

掲載期間 2024年9月～2025年3月

Photo by Keizo Kioku

作品を手がけた大巻 伸嗣氏は、まず場所のリサーチから始めました。東京都本庁舎のある西新宿地域に1965年まであった「淀橋浄水場」が、今も都市構造として引き継がれていることに着目。かつての浄水場に、都庁がそびえ、異なる国や地域から訪れる観光客や東京の人々が交差する場所となっています。

古くから絵画などで様々に表現されてきた水の文様と、鏡面に映り込む風景を大きなうねりの中に重ね合わせ、巨大なビル群に埋もれた場所の記憶と現在をつなぐことを試んでいます。平面的な表現を超えて、空間に新しい力を生み出しています。





写楽の眼、未来人の発見 YUSUKE KOMUTA

実施場所 江戸東京博物館
(東京都墨田区横網 1-4-1)

アーティスト 小牟田 悠介

主催 東京都

掲載期間 2024年11月～2025年9月

江戸東京博物館のロゴマークは、東洲斎 写楽が描いた「市川蝦蔵の竹村 定之進」の左目をモチーフにしています。そこで小牟田 悠介氏はこの「写楽の眼」を題材に、彩り豊かな作品に再解釈しました。制作には地元の中高生たちも参加。絵の中のパーツを自由な発想で組み合わせています。

また「未来人の発見」では、博物館の収蔵品から約30点をピックアップし、言葉を組み合わせたユニークな作品を仕上げました。これらの作品には、博物館が再開するまでの期間を、街の人たちにとってワクワクする時間にしてほしい、という思いが込められています。

10 本作品は、P24に記載する「守らなければならない広告物の規格」を超えています。東京都生活文化局が申請者となり、景観や風致の向上に資するものとして特別に許可を得て掲出したものです。



「写楽の眼」

Interview

工事の仮囲いは博物館の内と外をつなぐ境界線です。様々な人が前を通る中で、そこでちょっと足を止めてもらえるような、博物館の存在を伝えるきっかけになったらいいなと思いました。特に「写楽の眼」は、線のにじみだったり、絵の具が飛んだ跡だったり、しっかり見えるように印刷できています。またいずれの作品も、目の前に立つと身体が絵の中にすっぽり入ってしまうような大きなサイズです。是非近くに寄って、絵の中に入っていきえるような体験をしてもらいたいです。

小牟田 悠介氏 | Yusuke Komuta



Artists Interviews

「未来人の発見」



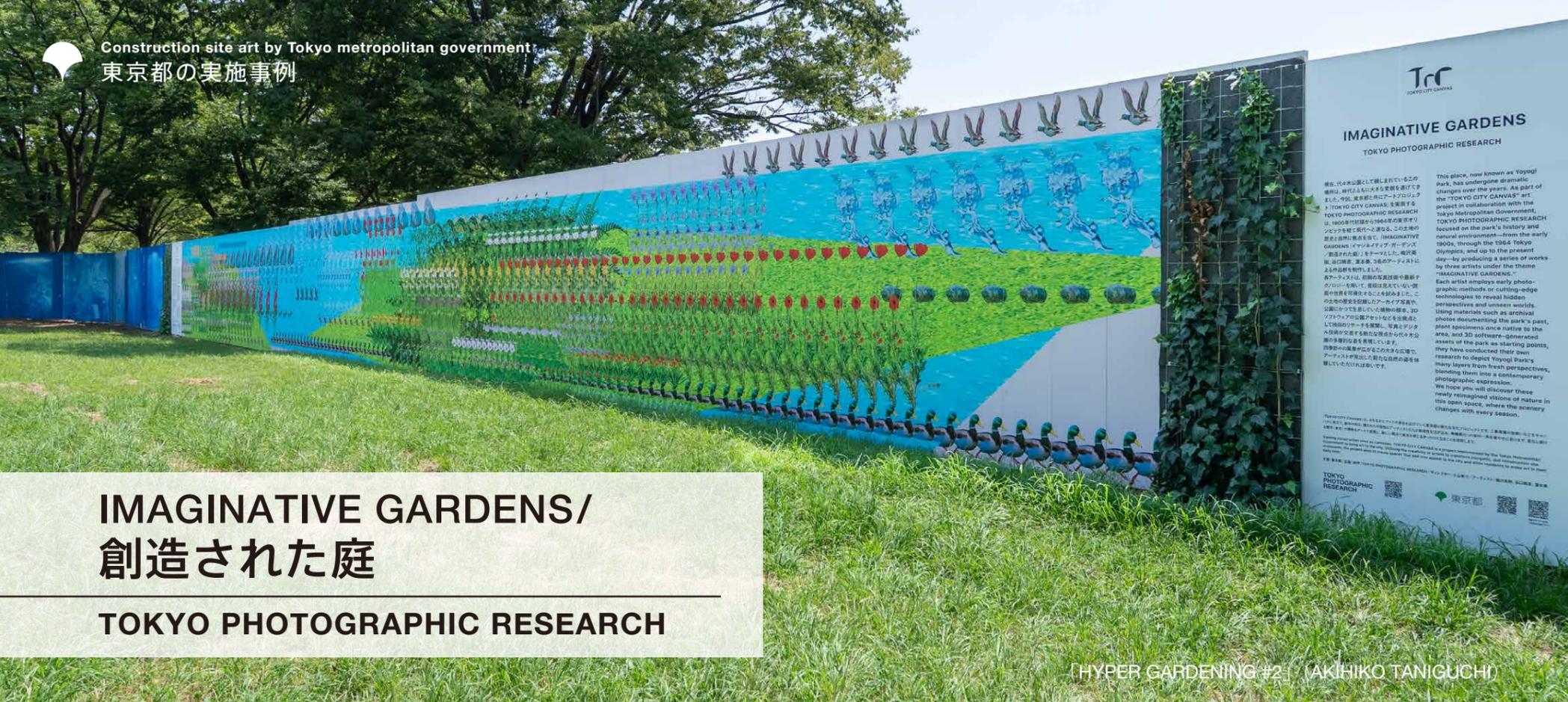
Photo by Reiko Masutani



Photo by Reiko Masutani



Photo by Reiko Masutani



IMAGINATIVE GARDENS/ 創造された庭

TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH

実施場所 代々木公園中央広場
(東京都渋谷区代々木神園町 2-1)

アーティスト 梅沢 英樹、谷口 暁彦、濱本 奏

ディレクター 小山 泰介 (TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH)

主催 東京都

掲載期間 2025年3月～2026年秋頃(予定)

多くの人々に親まれてきた代々木公園を、アートを通じて多様な視点で見つめ直すことをコンセプトに、全長約 170m にわたって展開されている本作は、小山 泰介氏のディレクションのもと、3名の若手アーティストによって制作されました。梅沢 英樹氏の作品は、植物学者の牧野富太郎博士が採集した植物標本をモチーフに、人と自然との関係性を問います。谷口 暁彦氏の作品は、3DCGで描いたバーチャルな自然を通じて、現実と仮想の境界を写し取ろうとしています。濱本 奏氏の作品は、移り変わる代々木公園の姿から、変わるものと変わらないものを表現しています。



Interview

代々木公園の大きな広場に面した場所での展示は、来園者の方の興味関心を引くことや、楽しめるアートにする点に難しさと同時に面白さを感じました。3名のアーティストは、歴史や地理など多様な視点からリサーチを重ね、作品に反映させています。そのため、作品を通じて代々木公園の新たな魅力を感じ、より親しみを持ってもらえたら嬉しいです。工事現場が多い東京において、仮囲いがアートの支持体として、様々な作品が体験できる場になってほしいと考えています。

小山 泰介氏 | Taisuke Koyama



Artists Interviews



はっぴいさん Theater

RYOJI ARAI

実施場所 旧こどもの城跡地
(東京都渋谷区神宮前5-53-1)

アーティスト 荒井 良二

主催 東京都

掲載期間 2026年2月～2027年2月

かつてこの場所にあった「こどもの城」や劇場にちなんで、絵本作家・荒井 良二氏の『はっぴいさん』（偕成社）を全8幕で構成しています。願いごとを叶えてくれるという〈はっぴいさん〉に会いに出かけた男の子と女の子の旅路が巨大な絵巻物のように描かれ、見る人は歩きながら物語の世界に入り込んでいきます。また、ワークショップを通して地域の園児から寄せられた「願いごと」を側面の仮囲いにちりばめました。こどもたちの「願いごと」は、大人にも通じるみんなの希望でもある、と荒井良二氏は語ります。

Interview

こどもの城という場所の記憶をもとに、子どもも大人も心の中に持っている共通のものを提示したいという想いがあり、それが『はっぴいさん』のテーマである〈願いごと〉だと考えました。横に長い仮囲いを絵巻物に見立て、絵本のエッセンスを抽出して描いています。また、かつての劇場にちなみ、絵本のエピソードを幕が上がった舞台風景のように表現しています。作品に添えた子どもたちの願いごとは、大人にも響くシンプルでストレートな言葉がたくさんあるので、読んでもらいたいです。

荒井 良二氏 | Ryoji Arai



Artists Interviews

写真：池田 晶紀



YURAKUCHO ART SIGHT PROJECT Vol. 05

実施場所	有楽町ビル・新有楽町ビル (東京都千代田区有楽町1丁目10-1 及び 12-1)
アーティスト	小林 菜奈子、小山 泰介、築山 礁太、 松井 祐生(関川 卓哉)、三野 新、村田 啓
ディレクター	小山 泰介 (TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCH)
主催	三菱地所株式会社
掲載期間	2025年7月～2026年度下期(予定)

有楽町エリアの魅力を発信する「YURAKUCHO ART SIGHT PROJECT」の第5弾。TOKYO PHOTOGRAPHIC RESEARCHのディレクター・小山 泰介氏をはじめとする6名のアーティストによって、有楽町ビル・新有楽町ビルの解体工事現場で実施された仮囲いアートです。

街の人びとの間に豊かな交流をもたらすことを目的に掲出された作品に、小山氏は「このエリアで撮影された風景や、現在解体中のビルが竣工された当時の写真を作品に込めることで、普段、通り過ぎる風景の中からもアートが生み出されることを感じてほしい」と語りました。

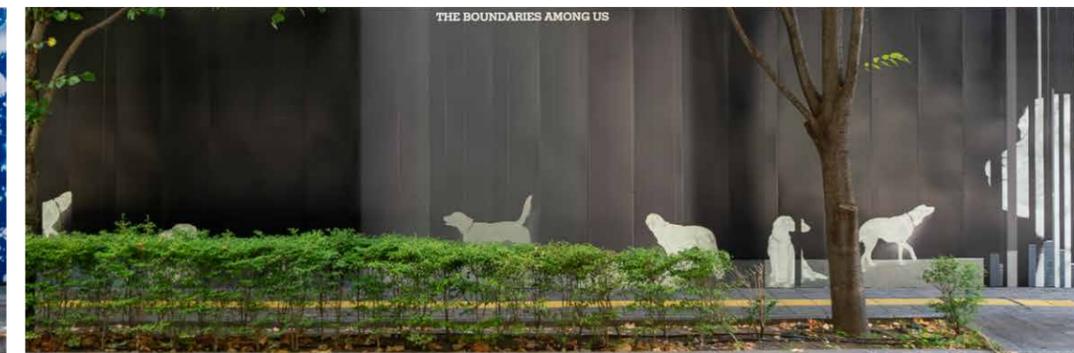
Interview

このプロジェクトは、有楽町の二つのビルを解体し、YURAKUCHO PARK が新たに開業するまでの準備期間に、来街者に街の進化や芸術性を体感し、楽しんでもらう仕掛けを提供すること、及び未来のまちづくりにつなげる狙いで企画しました。2020年から継続的に有楽町エリアでアートと都市の共存に取り組んできたプロジェクトの一環で、有楽町に思い入れのあるアーティストと協業することで、街の魅力を体現することができたのではないかと感じています。

三菱地所株式会社 丸の内運営事業部 安見 茜音氏



Business Interviews





～ Shibuya Culture Jungle ～ 多様性を輝かせる

Interview

東急グループが掲げる「個性を尊重し、人を活かす。」という経営理念のもと、渋谷区が大切にする「ダイバーシティとインクルージョン」という考え方とも連携し、「多様性を輝かせる」をコンセプトにしました。多様な人が行き交い、様々な文化が息づく渋谷の特性を、「カルチャージャングル」と表現し、太田氏による鮮やかな色彩で描かれた草木やコウモリから、我々が考える「渋谷らしさ」を伝えたいです。渋谷の街にはアートが点在しているため「渋谷＝アート」の大きな流れを作るきっかけになればと思います。

東急株式会社 塩澤 寅樹氏 / 一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント 桂 麟太郎氏



実施場所 渋谷スクランブルスクエア西棟
(東京都渋谷区渋谷二丁目 23 番 外)

アーティスト 太田 宏介

主催 東急株式会社
協力 一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント

掲載期間 2025年8月～2026年2月

渋谷駅西口の仮囲いに掲示された色鮮やかなコウモリや草木は、自閉スペクトラム症ならではの感性を持つ太田 宏介氏が創作した15点の作品群。渋谷スクランブルスクエア西棟の50m 続く仮囲いをダイナミックに彩っています。

太田氏の作品を通して、多様な価値観や背景を持つ人々が互いに認め合い、活躍できる社会の実現をメッセージとして伝える意図があります。

また、10年以上にわたって続く工事によるネガティブな印象を和らげつつ、仮囲いアートを通して、様変わりする渋谷駅前の再開発への期待感を醸成したいという思いが込められています。





108 八重洲さくら通りプロジェクト

WOK22

実施場所 八重洲さくら通り及び外堀通り沿い
(東京都中央区八重洲一丁目6番地)

アーティスト 水戸部 七絵、WOK22

主催 108 ART PROJECT

掲載期間 2024年9月～2025年7月(水戸部 七絵)、
2025年7月～2025年10月末(WOK22)

八重洲さくら通りの仮囲いを使ったアート作品やライブペイントを企画したのは、全国各地に工事現場アートを展開する108 ART PROJECT。「まちにART(にぎわい)を、ひとにART(豊かさ)を」をテーマに、地権者やアーティストだけでなく、地域住民や専門家など多様な人と連携しながら、賑わいのあるまちづくりを目指した活動を続けています。

無機質になりがちな工事空間をアートで彩ることで、作品との偶然の出会いが見る人の感情を揺さぶるきっかけになるだけでなく、工事現場で働く人の誇りや満足感にもつなげたいという思いがあります。

Interview

仮囲いによって、街が物理的にも時間的にも分断されてしまうことに課題を感じていました。これからのまちづくりは、数字や計画といった"ロジカル"の積み重ねだけでなく、人の感情を揺さぶる"体験"が重要だと考えます。仮囲いアートは、思いがけない場所で「綺麗だな」「かわいいな」といった感情の揺らぎや、「これは、なんだろうな?」「もしかしたら、こういうことを表現しているのかな」といった考えるきっかけを提供してくれます。発想や気づきを与える場所として仮囲いを活用していくことに、大きな意義があると感じています。

108 ART PROJECT 事務局 ディレクター 木下 雅幸氏



Business Interviews



NANAE MITOBE



WOK22



STEP 1

企画設計

地域の特性や工事現場の性質、歴史的な経緯などを考慮し企画を検討

- 目的(地域活性化、景観向上など)の明確化
- ターゲット(地域住民、観光客など)に合わせたアートコンセプトを検討
- アート掲出の方法や、アート制作方法を検討
- 実施予算を検討
(アーティストフィーや掲出に必要な工事、最後の撤去費用など)
- 屋外広告物条例や景観条例などの規制や手続きを確認

次ページにて
解説

STEP 3

施工・設置

アートを掲出するために使用する素材などを決定
(ターポリン・シートの種類など)

- アーティストや施工業者など、プロジェクトに係るメンバーで相談し、最も適したものを選定
- 掲出期間によっては、アート作品を保護するコーティングも検討するなど、耐久性の確認も重要

STEP 2

アーティストの選定・デザイン制作

企画をもとにテーマに合ったアーティストを選定、依頼しデザインを作成

- アーティストの選定にはキュレーター*やアートディレクターと呼ばれる専門家に相談することも可能
- 地域活性化に向けた住民との共同制作のケースでは、地元によりあるアーティストへの依頼も選択肢のひとつ

*キュレーターとは、展覧会やアートイベントなどで作品の選定・展示企画を行う専門家で、アーティストの魅力を引き出す構成や演出を担う。

STEP 4

アート公開

- アート作品の公開後の定期的な点検やメンテナンス
- SNS等で周知拡散

東京都屋外広告物条例

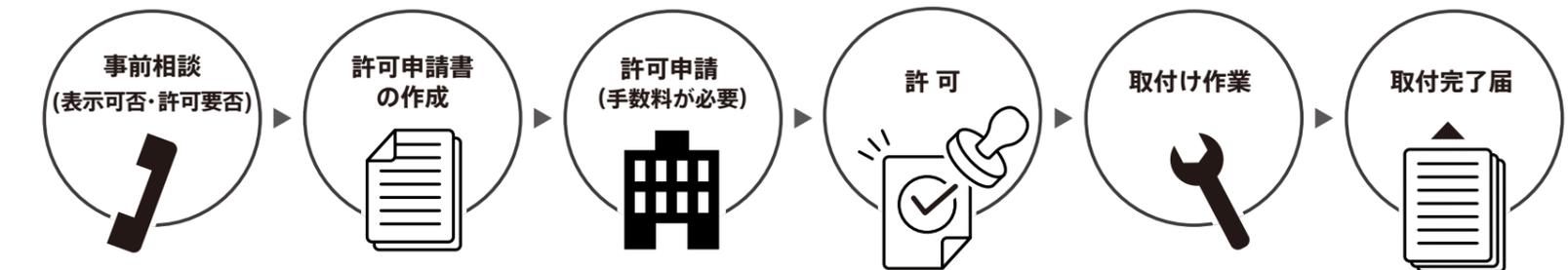
アートは屋外広告物に該当するのか？

- ▶ 具体的なイメージや観念を表しているものであれば、文字で表示されていない絵・シンボルマークなども、その表示する内容にかかわらず、屋外広告物として扱われる

1. 屋外広告物の定義

屋外広告物とは、商業広告に限らず、①「常時又は一定の期間継続して」②「屋外で」③「公衆に表示されるもので」④「看板、はり紙・はり札、広告塔及び建物その他のものに表示・掲出されたもの等」をいう

2. 屋外広告物申請手続の流れ



掲出中の管理

許可期間・許可番号等を表示した標識票を見やすい箇所にはり付けなければならない

掲出終了後

除却届を提出

3. 条例に基づく規制

- 仮囲いの表示面積の上限については、掲出場所の許可権者に確認する
- 宣伝の用に供されていない絵画、イラスト等であり、規格等の要件に適合している場合は、屋外広告物表示・設置届の提出で対応できる場合もある
- 屋外広告物の出せないところ、出せるところ
- ① 禁止区域：屋外広告物を出すことを禁止する必要がある地域（自家用広告物であれば20㎡まで許可を受けて掲出することができる）
道路は禁止区域 → 仮囲いが道路にはみ出ている場合は掲出不可
- ② 許可区域：許可を受けることにより屋外広告物を表示することができる地域

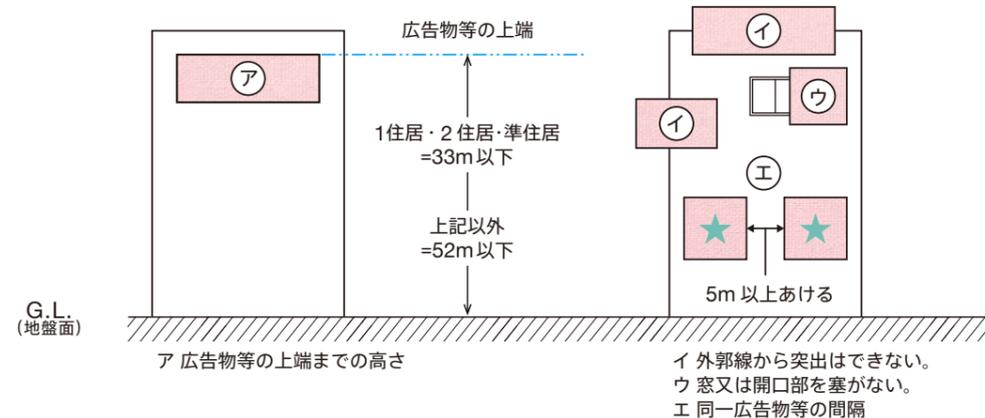
○守らなければならない広告物の規格

掲出に際しては、規則で定める規格が適用されるので、実際に広告物を出そうとする場合には、必ず事前に屋外広告物取扱窓口（各許可権者）に相談する

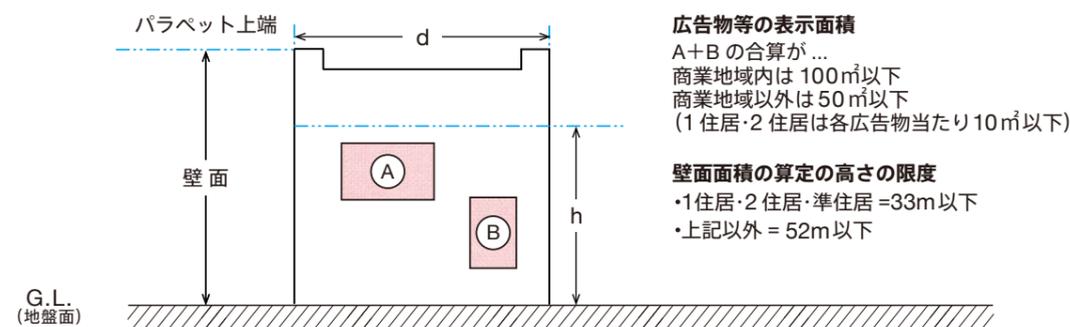
【参考】
屋外広告物のしおり



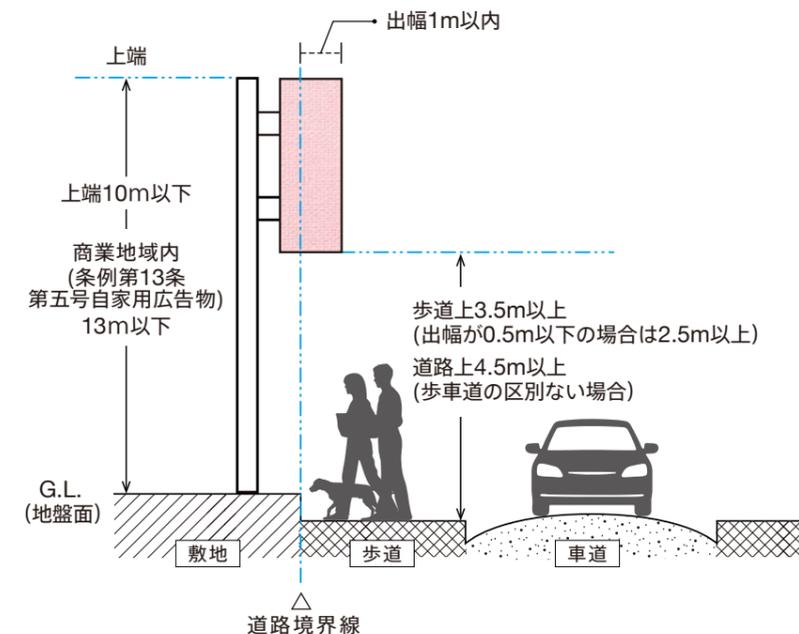
【例：「建築物の壁面を利用する広告物等」の規格を準用する場合】



オ 壁面面積 $S = h \times d \rightarrow$ 広告物等表示面積合計 $= A + B \leq S \times 3/10$



【例：「土地に設置する広告塔及び広告板」の規格を準用する場合】



その他必要手続きなど

- ・掲出する場所によっては「景観事前協議」が必要な場合がある ※色彩の制約など
- ・アーティストが一定時間道路上で作業を行う場合などは、道路交通法に基づく「道路使用許可申請」や道路法に基づく「道路占用許可申請」が必要な場合がある
- ・八王子市は中核市に移行したため、八王子市屋外広告物条例に基づく規制が適用される
- ・町田市は景観行政団体として独自の条例を施行したため、町田市屋外広告物条例に基づく規制が適用される



都市空間の一角を彩ることで、無機質だった工事現場が魅力的な景観へと変え、誰もが身近にアートを楽しめる環境づくりを目指し、東京都では、民間企業や団体が実施する工事現場を活用したアートプロジェクトに対して、経費の一部を支援しています。都市の新しい魅力づくりに貢献する取り組みを後押しします。

□ 対象となる事業

東京都内の工事現場に設置される仮囲いや養生幕等を活用したアートプロジェクト
屋外広告物条例や景観条例など、必要な法的手続きを行い、助成対象期間内に公開が可能な事業
※申請時点で許可申請が完了している必要はありませんが、助成の採択が許可取得を保証するものではありません。
※許可が得られず掲出できなかった場合、助成金は交付されません。

□ 助成内容

製作・施工費：助成対象経費の1/2以内、上限1,000万円
アート・デザイン制作費：実費で上限300万円まで支援（超過分は施工費に含めて申請可能）
※2025年度より、助成対象経費には消費税および地方消費税相当額は含まれません。

□ 実施期間

公募から約1年の間に設置が完了する事業が対象です。
作品の完成・公開開始をもって助成事業は完了とみなされます。

□ 申請資格

東京都内に本部事務所または本店所在地を有する民間企業、企業グループ、協議会、芸術団体、実行委員会 など
個人や国・地方公共団体は申請者にはなれませんが、実行委員会のメンバーとしての参加は可能です。

□ 採択のポイント

審査では、以下の観点で総合的に評価されます。

- ◎実現性 ◎魅力的な空間、景観 ◎企画力 ◎発信力 ◎訴求力



TOKYO CITY CANVAS 助成については、
公益財団法人 東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京の
ウェブサイトをご確認ください。





Q | 仮囲いにアートを掲出する方法にはどんな種類がありますか？

A | 一般的には塩化ビニル製のグラフィックシートにアートを印刷して貼付することが多いです。仮囲いに直接ペイント、養生幕にアートを印刷して囲うといった方法もあります。

Q | 制作から掲出までのスケジュールはどれくらいですか？

A | 企画からアートの掲出まで約半年～1年ほどかかることが多いです。

Q | アートの掲出にはどのような手続きが必要ですか？

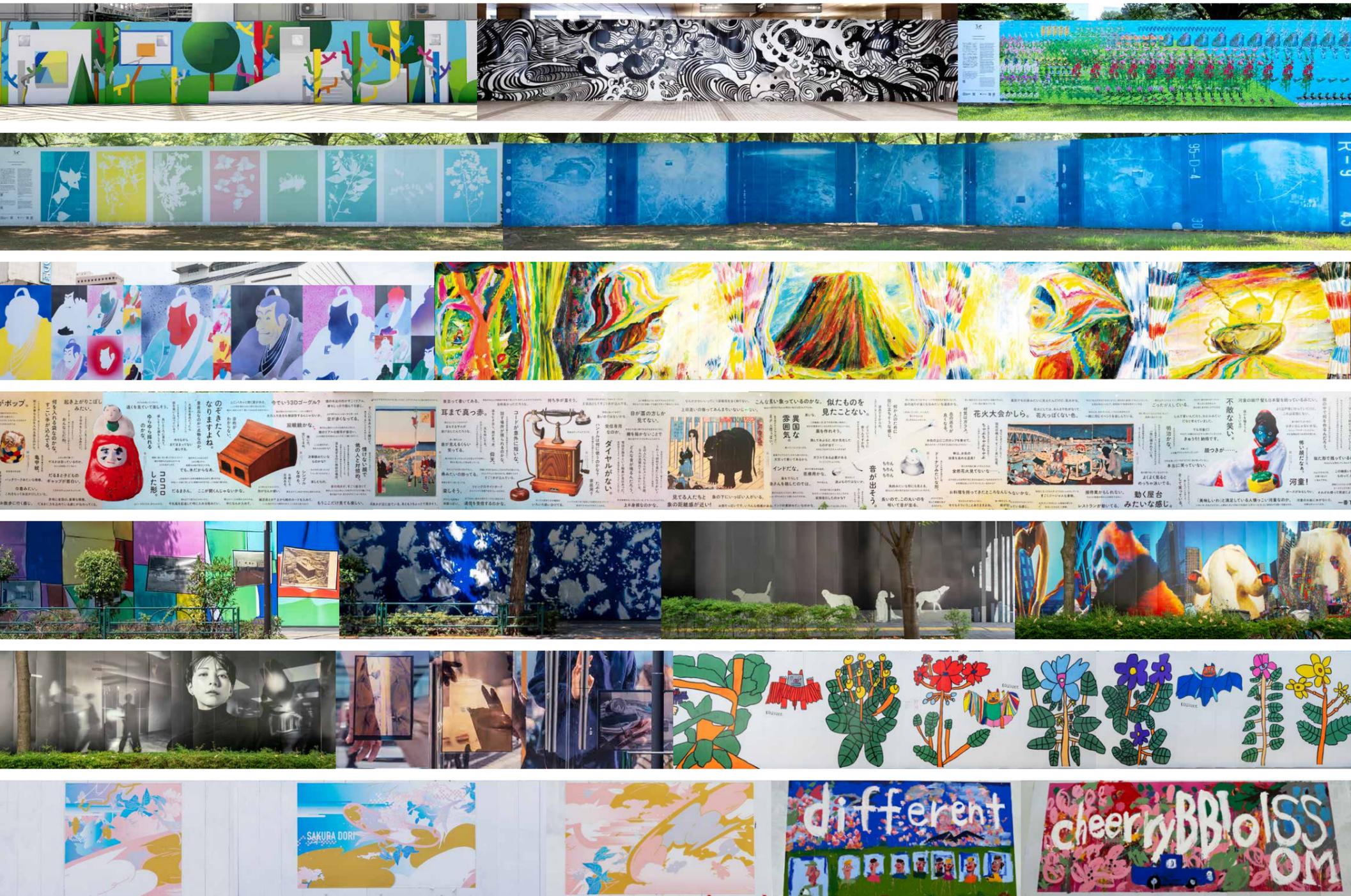
A | 東京都屋外広告物条例に基づく申請や景観協議が必要になる場合があります。また、アート施工にあたっては、道路使用許可申請や道路占用許可申請が必要な場合もあります。企画段階で関係自治体等へ確認することが必要です。

Q | アーティストの選定はどのようにしていますか？

A | キュレーターやアートディレクターなど専門家へ依頼し、アーティスト候補を推薦してもらうことをお勧めします。その中からプロジェクトのメンバーで協議の上決定することが多いです。

Q | アートの内容はどのように決めていきますか？

A | アーティストと事前にコンセプトを提示し擦り合わせた上で、それを踏まえたスケッチ、ラフ案をもとにアートの内容を確認しています。また、許認可の関係でデザインや大きさに制約を受けることもあります。申請の際にご確認ください。



一人ひとりと生きるまち。



2026年3月発行

編集・発行：東京都生活文化局文化振興部企画調整課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話：03(5000)7227

デザイン・印刷：株式会社4X
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
電話：03(3238)0704

登録番号：(7)9



VOC(揮発性有機化合物)成分フリーのインキを使用して印刷しました。



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。